



「自然と触れ合いながら」

校長 高嶋 聡

令和5年度のスタートから1か月を迎えようとしています。4月13日に「1年生を迎える会」が行われました。昨年度までは、コロナ感染予防の観点から放送による会でしたが、今年度は校庭で行いました。爽やかな春の日差しの中、2年生から6年生の上級生と新しく仲間として迎えられた1年生がお互いに直接顔や姿を目にしながらか楽しく会を行うことができたことをとても嬉しく思いました。また、翌週17日の朝会も校庭で行いました。朝会を校庭で行うのも3年ぶりです。昨年度はすべての朝会を放送で行いました。放送朝会は、画像を見せることができ、移動の時間がかからないなどの良い面もありますが、やはり、子どもたちの反応や様子を見ながら話すことができる校庭の朝会も良いものです。春や秋など季節の良い時期は校庭で、夏場や冬は放送で、というように組み合わせたいと考えています。

その日の朝会は、久しぶりの校庭での朝会ということもあり、校庭の樹木についてのお話をしました。昨年度の6年生が、総合的な学習の一環として学校の木に樹木プレートをつけてくれました。SDGsの取り組みである「森林を愛する人づくり事業」に応募し、子どもたちが一つひとつ手作りで樹木名や絵、花言葉などを書いたプレートを仕上げ、自分たちで取り付けました。朝会で子どもたちに校庭にある樹木の名前を尋ねてみると、私が予想していたより多くの児童が木の正しい名前を口にして答えてくれました。お話の最後に、「まだプレートを取り付けていないキンモクセイの木がわかったら教えてね。」と投げかけたところ、翌日には3年生の児童が「キンモクセイわかるよ。」「この木でしょ。」「2年生の時教えてもらったからわかるもん。」と教えに来てくれました。中和田小の子どもたちを何十年も見守っている校庭の木々たちに多くの子が関心をもってくれたら嬉しいです。



私は休み時間、校庭で過ごす子どもたちの姿を見るのが大好きです。鬼ごっこやボール遊びをしている子どもが多いですが、校庭の生き物に夢中になっている子どもたちもいます。この時期は、ますみ池にたくさんの子どもの姿があります。何百匹というオタマジャクシが見られるからです。「校長先生見て〜！」と目を輝かせてオタマジャクシの姿を追っています。「後ろ足が生えたのもいるよ！」と成長を観察している子もいます。池にいるエビを見つけようと頑張っている子もいます。また、畑では、テントウムシを見つけたり、バッタを捕まえたりしている子もいます。中にはトカゲを捕まえて見せてくれる子もいます。休み時間という短い時間ではありますが、自分たちの身近にある動植物などの自然



に目を向けたり、触れ合ったりすることを通して自然を大切なものと感じる心が育ってくれることを願っています。これから子どもたちが課題として直面していく持続可能な社会への取り組みにとって大切なことだと私は思います。休み時間だけでなく、理科や生活科、総合的な学習等でも自然に親しむ機会を作っていくことを大切にしたいと思います。

4月より学校ホームページの更新に力を入れ、副校長を中心に日々の学校の様子をお伝えしています。ぜひご覧いただき、日頃の教育活動について知っていただければと思います。